「御国がこの地に来るように」ネヘミヤ　４章　15から20節

 　2015年2月5日（木）永井敏夫

　エルサレムの城壁は崩され、門は火で焼き払われていた。（1：3）これは現在の東アジアの緊張状態を表す表現でもあるように思う。三国の互いの交わりが崩壊寸前になっている。

　サヌバラテたちは、城壁の修復の様子を聞いて、怒り、非常に憤慨したとある。（4：1）

私たちがこの場に集まり、賛美を献げ、みことばに聞き、祈りを献げる営みは、神の国の建設を願ってのことである。東アジアの国々に、神の統治がなされることを願い、ここに私たちが集まり遠に過ごすのは、人と人の回復、国と国の関係の回復に繋がっていくと私は信じている。みなさん方青年たちは、次世代の国々を創っていく民であり、平和を希求する営みを継続して行って欲しいと心から願う。

悪しき力は常に働いている。4：7-12には、非常に怒り、混乱をおこそうと陰謀を企て、四方から十回も懐柔に来たことが記されている。「東アジアのこの緊張関係は、祈っても何も変わるわけがない。」「現実を見よ。かえって悪くなる一方ではないか？」などの思いが私たちの心の中に囁きかけてくることもあるだろう。しかし、悪しき者の声に耳を貸してはならない。

4：16には半分が工事を続けたとある。私たちも、集まり、賛美し、祈り合うことを継続しようではないか？4：17には、半分は槍、盾、弓、よろいで身を固めたと書かれている。

平和を求めることは、霊的な戦いでもある。みことばをもって、イエスキリストの御名によって、悪しき力を砕いていかなければならない。みことばの剣によって、敵を攻撃しなければならない。集まり賛美すること、互いの思いに耳を傾け、互いにとりなしの祈りをする、そして互いに祝福し合うことが本当に大切だ。ひとつの心で礼拝していく中で私たちはこう宣言しようではないか。「私たちの王はイエスキリストである。」と。

「我らの王はイエス」という賛美を私はこの頃よく歌っている。

「御国の統治がなされるように。御国がこの地に来るように。絶えず高らかにこの地に宣言しよう。我らの王はイエス。この町の王はイエス。この国の王はイエス・キリスト。」

私たちは御国の民である。私たちの王はイエス・キリストであるといつも告白しながら歩んでいこう。あなたにとり、「城壁を築く、修理する。」ということはどういうことだろうか？ぜひ祈りながら考えて欲しい。大きな城壁を作る時、たったひとつの小さな石を置くだけのことかもしれない。でも主はそのわざを共にしてくださる。今日の一日が、自らに問いかけ、そして神の語りかけを聞く一日であって欲しい。